

備えあれば憂いなしですよ！

防災対策 電力確保に公共施設の貸屋根方式を

状況を見極めながら整備方法を考えます



柳田多恵子 議員

質問

防災を主とした貸屋根方式による太陽光発電設備がある。場所の提供と使用料は受けるが、設置・管理は事業者の責任、売電益も事業者に。しかし、災害時は切り替えて電力を行政が無償で使用するというものだ。町のデメリットはないと思うが検討を。

答弁

総務課長 現在、在庁舎に太陽光発電設備の整備を進めています。電力を売電するのではなく、使用電力の一部を補う方式です。ご指摘の貸屋根方式は、老朽化による施設改修の問題などもありますが、今後状況を見極めながら考えていきます。

質問

災害時には情報伝達手段が複数あることが重要である。メール配信の登録は、防災行政無線の整備の推進、災害時に地域で中心となる人への防災ラジオの貸与は。

答弁

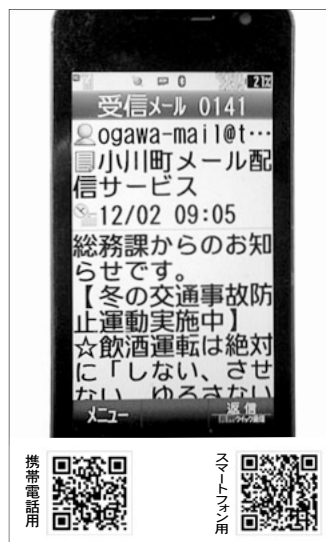
総務課長 メール配信の登録者は10月1日現在で894人です。登録を増やす働きかけを今後行ないます。また、防災行政無線のデジタル化が完了します。メール配信、防災行政無線以外には、広報車による広報や警察・消防署・消防団に協力要請をして巡回による情報の周知を行ないます。防災ラジオ（個別受信器）の貸与は、今後研究してまいります。

質問

町の災害見舞金の増額や対象の拡大（一部損壊や敷地内へ大量の土砂が流れ込んだ場合など）について検討は。

答弁

総務課長 調査基準があり、慎重に判断すべきものと考えています。



QRコードを読み取って簡単に登録できます



島崎隆夫 議員

過去にこだわるのではなく、見直し、そして、活かしていく！

近い将来

夢と希望をもって進める町へ

政策の中で考えていきます

質問

①おもてなしについて、ユニバーサルデザインの考え方を全町民で共有したいが。

答弁

福祉介護課長 各計画や構想のもとで進めます。

質問

観光ガイドマップの外国語対応は。

答弁

産業観光課長 現在は米韓中の3カ国語、他の言語に対しては検討します。

質問

当町ホームページのページは、また、デザインやシステムの変更

は。

答弁

政策推進課長 町内外に発信すべき情報量の増加や多様化に、対応していかなければならないと考えています。

質問

②7年後のオリンピックピック・パラリンピックの出場を目指す方を応援するための施策は。

答弁

教育長 県事業「彩の国プロチャナキッズ」等の参加者を応援・紹介します。

質問

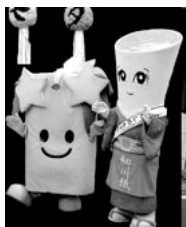
小川和紙を大会で使っても、もう努力をしてはどうか。

答弁

産業観光課長 昭和39年の大会で使用したとの記録がありますので、再び使用していただけるようにアピールします。

質問

過去の大会に係わった方をエピソードとして紹介することは。



細川紙が結ぶ縁 したむちゃんとわしのちゃん

答弁

教育長 情報提供のもとに対応したい。

質問

③昼間人口と夜間人口について、昼間人口の増加現象により、住民の安全が脅かされてはならない。交通網の整備に対する考えは。

答弁

建設課長 安全かつ快適で利便性が高くなるように整備していきます。

質問

夜間人口は大半だと考えるが、車・鉄道利用者のストレス軽減へのインフラの整備を進めてほしいが。

答弁

建設課長 町長が鉄道会社へ直談判しています。また、交通網の整備を指示されていますので、積極的に努力し推進します。

少し気になること

まつおかかず ま 下里四区 松岡一眞



本欄の投稿依頼があり、思いつくままに少し気になることを書き述べてみたいと思います。

広報を見ると昨年も400人ほどの人口減少で、この問題は小川町だけに限りませんが、町政においてもさまざまな議論が交わされ、課題に取り組んでいただいていると思います。

大きな事件・事故もなく、自然災害も少なく、豊かな自然に囲まれた環境で住民の温かさに恵まれた生活は、この町に住み続けたいと願う住民が60%近い結果が示していると思います。しかし、減少が続くのは非常に残念なことであります。

町政においてもご努力されてはいると思いますが、積極的に企業の誘致を図り、地元で働ける環境づくりをお願いしたい。また、以前にも投稿されておりましたが、使用されていない公共建物の早期の再利用の検討をしていただければと思います。

食育を学んで思うこと

いしかわり か 角山上 石川史香



看護師時代に褥瘡対策で学んだ栄養マネジメント、自営業で「食」で生活させてもらっていることなどから興味を持ち「食育」の資格を取得しました。

それを生かして、店では食品ロスを減らす試みをしています。仕入れから工夫をして、仕込んで無駄を出さないことや、メニューの量に段階を設け、自分に合った量が注文できるなど。

食の安全やらバランスやらいろいろ学びましたが、食育とは「命をいただくから、いただきます」「感謝を込めて、ごちそうさま」に尽きる。そんな簡単なことが大切だと思います。

食育の学習を通して、食を大切にすることは自分の命も他者の命も大切にすることにつながり、それを家庭や、自然豊かな小川町という地域で伝えていけたら、食材となった動物や植物と生産者の皆様へ恩返しができるかな、と考えるようになりました。